

実験動物の技術と応用 入門編 増刷（第十刷）にあたっての修正点

| 修正箇所 | 修正前（第九刷まで） | 修正後（第十刷） |
|---|--|--|
| p. 66 「(7)E0 ガス滅菌機」 の項、上から1行目 | 「～として、「特定化学物質等 障害予防規則」特別管理物質と して規制～」 | 「～として、「特定化学物質障 害予防規則」特別管理物質とし て規制～」 |
| p. 131 右欄、「ケージのサイ ズ」の項 | 米国 ILAR の基準では、ビーグル のような体重 15kg 以下のイヌの 場合、1 匹あたりの床面積は 0.74m ² 以上で、 <u>高さは 82cm 以上 とするとしている。すなわち、 82(間口)×90(奥行)×82(高 さ)cm 以上の大きさのケージが求 められる時代になってきたとい えよう。</u> | 米国 ILAR の基準（第 8 版）で は、ビーグルのような体重 15kg <u>を下回るイヌの場合、1 匹あた りの床面積は 0.74m² 以上で、高 さはイヌが肢を床に置いて楽に 直立できるよう、十分な高さが なければならないとされてい る。</u> |
| p. 139 「3 飼育管理、1. ケ ージおよび床敷」の 項、5～7 行目 | <u>ILAR の記載基準</u> では、1 頭あた り、床面積は体重 4kg 以下が 0.27m ² 、4kg を超えるものは 0.36m ² 以上で、高さはそれぞれ 61cm とするとされている。 | 米国 ILAR の基準（第 8 版）で は、1 頭あたり、床面積は体重 4kg 以下が 0.28m ² 、4kg を超え るものは 0.37m ² 以上で、高さは それぞれ 60.8cm と推奨してい る。 |
| p. 155 「2. 実験用サル類、 (1)アカゲザル」の 項、上から1行目 | 「 <u>体系</u> はニホンザルよりやや小 さく～」 | 「 <u>体型</u> はニホンザルよりやや小 さく～」 |
| p. 168 右欄、「人工受精」の 項目名 | 人工 <u>受</u> 精 | 人工 <u>授</u> 精 |
| p. 173 「(2)アフリカツメガ エル」の項、下から2 行目 | 「 <u>胸線</u> を除去する～」 | 「 <u>胸腺</u> を除去する～」 |
| p. 175 「(1)ショウジョウバ エ」の項、上から5行 目 | 「～、さらに大型の唾液 <u>線</u> 染色 体を持っている～」 | 「～、さらに大型の唾液 <u>腺</u> 染色 体を持っている～」 |
| 目次 v VI 飼育と衛生 1 の項目名 | 「衛生的飼育管」 | 「衛生的飼育管理」 |

加えて、p. 123、5-1 を下記の通り修正します。
(修正前)

| 表 5-1 ケージサイズの基準 | | | | | |
|-----------------|--------------------------|------------|-------------------|--------------------------|------------|
| 96USA | | | EC(EU) | | |
| 体重 (kg) | 面積 (cm ²) | 高さ (cm) | 体重 (kg) 単飼) | 面積 (cm ²) | 高さ (cm) |
| <2.0 | 1350 | 35.6 | 1 | 1400 | 30 |
| | | | 2 | 2000 | 30 |
| 2.0-4.0 | 2700 | 35.6 | 3 | 2500 | 35 |
| | | | 4 | 3000 | 40 |
| 4.0-5.4 | 3600 | 35.6 | 5 | 3600 | 40 |
| >5.4 | 4500 | 35.6 | | | |

(修正後)

| 5-1 ケージサイズの基準 | | |
|------------------------|-----------------------|---------|
| ILAR (USA) の基準 (第 8 版) | | |
| 体重 (kg) | 面積 (m ²) | 高さ (cm) |
| <2 | 0.14 | 40.5 |
| 2<4 | 0.28 | 40.5 |
| 4<5.4 | 0.37 | 40.5 |
| >5.4 | ≧0.46 | 40.5 |
| EC (EU) の基準 (2010) | | |
| 体重 (kg) | 面積 (cm ²) | 高さ (cm) |
| <3 | 3500 | 45 |
| 3～5 | 4200 | 45 |
| >5 | 5400 | 60 |

実験動物の技術と応用 入門編 (第十刷) の正誤表

下記の通り訂正いたします。

| 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|---|---|---|
| p. 53 「4. 体重測定」の項、 上から 1 行目 | 「～最も <u>繁</u> 用される。～」 | 「～最も <u>汎</u> 用される。～」 |
| p. 78 上から 5 行目の「縫合 針」の項 | 外科用角針 (弱 <u>湾</u> 型、強 <u>湾</u> 型) | 外科用角針 (弱 <u>弯</u> 型、強 <u>弯</u> 型) |
| p. 130 「2 解剖・生理」の 項、3 行目 | 「～、イヌは食肉 <u>類</u> の特徴を有 しており、～」 | 「～、イヌは食肉 <u>目</u> の特徴を有 しており、～」 |
| p. 131 「1. 器具器材および飼 育室」の項、最終行欠 落 | 「～。給水については、イヌ用 の給水ノズルを取り付けた__」 | 「～。給水については、イヌ用 の給水ノズルを取り付けた自動 給水装置が使用される場合もあ る。」 |
| p. 163 「5) 内臓系」の項、下 から 5 行目 | 「 <u>脾</u> 臓は十二指腸 <u>系</u> 蹄に挟まれ たかたちで～」 | 「 <u>脾</u> 臓は十二指腸 <u>係</u> 蹄に挟まれ たかたちで～」 |